

蒲生干潟の植物③②

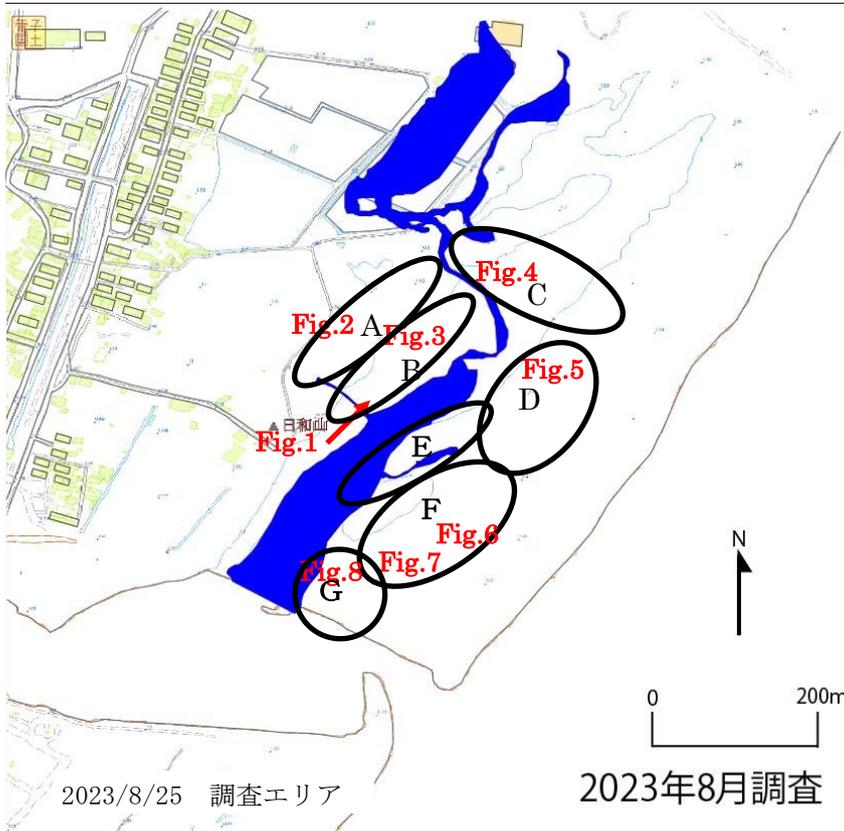


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影

Fig.3 エリアBで撮影

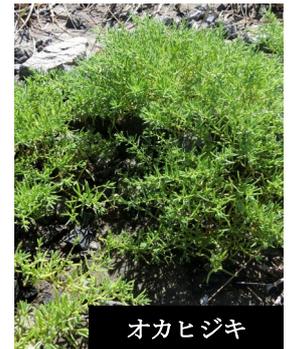


Fig.4 エリアCで撮影

Fig.5 エリアDで撮影

Fig.6 エリアFで撮影

Fig.7 エリアFで撮影

Fig.8 エリアGで撮影

調査日時：2023年8月25日（金）9:30～11:30，天気：快晴

全体的に水量が少ない時間帯であった。定点観測では、隙間なくハマツナが生い茂っている様子が確認できた (Fig. 1)。エリアAのヨシは、これまで30～50cmずつ伸びていたが、先月と比べるとそこまで大きく伸びていなかった。穂をつける準備期間になると思われる (Fig. 2)。エリアBのハマツナは、15cmほどに成長した他、葉も横に広がり、地面を隠すように成長したのが分かる (Fig. 2)。エリアCのシオクグは、先月からあまり変化は見られなかった (Fig. 4)。エリアDでは、ハマニガナの花が多数確認できた。葉の量もこれまでで一番多く、広範囲に広がっていた (Fig. 5)。エリアFでは、コマツヨイグサの花が多数見られた (Fig. 6)。場所によっては群生して生えている場所もあった。また、エリアFでは、コウボウムギがすっかり茶色となり、種が落ち始めていた (Fig. 7)。エリアGの汀線沿いに群生しているオカヒジキは、順調に生育し、大きいもので直径40cmほどになっていた (Fig. 8)。

(宮崎佳彦)